

医療機関名	くまもと芦北療育医療センター
-------	----------------

許可病床数	205床(うち一般205床、療養0床)
-------	---------------------

## 1. 現状

- 診療科として小児科・内科・歯科標榜。
- 主な事業として、医療型障害児入所施設・療養介護事業所・児童発達支援センター・生活介護事業所・相談支援事業所(特定・障害児)等を運営しております。
- 入所機能として、NICU等医療機関からの重症児者の受け入れ(在宅移行への中間施設機能含む)、児童相談所からの措置入所、在宅支援機能(短期入所事業、通所事業等)利用者からの入所移行等があります。
- 在宅支援機能として、通所事業(定員 15 名)、短期入所事業(併設型 10 床)、相談支援事業を運営。在宅から入所へライフサイクルに合わせた一貫したサービスを提供いたします。
- 重症心身障害児者(発達障害含む)専門の外来にて、在宅ご利用者への医療提供を行うとともに、PT、OT、STによる機能訓練や在宅障害児者への歯科治療を実施しております。また外来利用のご家族を対象にハッピー会を定期的実施し、専門家による講演や家族同士で悩みを共有できる場を提供しております。

## 2. 地域において今後担うべき役割 (必須)

当センターは、昭和 43 年に設立され、昨年 50 周年を迎えました。設立当初より、重症心身障害児者に特化した施設として医療福祉の提供を行って参りました。入所者は常時、濃厚な医療を必要としており、多くの場合、その生涯を当センターにて全うされます。県内において、同種の施設は主に 4 か所であり、各施設が県内における重症心身障害児者のニーズに対応しております。

地域における当センターの役割として、

1. これからも熊本県南部における重症心身障害児者に対する施設機能を地域に還元して参ります。常に濃厚な医療が必要な重い障害があっても、日ごろから豊かな日常をお過ごしいただくため、各種行事(秋祭り等の季節のイベント)を実施しております。またその立地から、県外(鹿児島県出水市等)からのご利用もあります。
2. NICU、PICUの行き場のない重症児(超重症児)の受け入れも重要な役割です。ここ数年当センターの入所者はNICUからの依頼によるものです。今現在も入所の要望を頂いておりますが、超重症児の受入許容数が超過しており、入所が困難な状況です。今後もNICUからの要望は継続するものと思われるので、スタッフ増員を図り対応をしていきます。
3. 医療的ケア児の在宅支援として、NICUから在宅への中間施設機能があります。医療的ケア児が在宅生活を営む上で必要なスキルを当センターにてレクチャーし、また同時に行政、医療機関、社会資源とともに、支援体制を構築し地域社会にて継続的に生活できるよう支援します。
4. 近年、自然災害(地震や大雨)等の非常時における支援のニーズが増加しております。在宅にて生活される重症児者は、ライフラインの途絶、または実際に被災した場合、避難所生活において大きな制約が見込まれます。熊本地震以降、非常時における在宅重症児者の受け皿として今後、不可欠な施設機能と考えております。
5. ご利用者への医療福祉支援と同時に障害児者をもつご家族へのケアも重要な課題としております。特に母親は親族間や地域にて孤立しがちであるため、入所コーディネーター(看護師・社会福祉士)が新生児科と密接に連携を取り、重症児を家族として迎えるための心の準備と、その後のお子様の成長に合わせた療育について、ご家族とともに考えます。

**3. 具体的な計画** (必須)**(1) 病床機能ごとの病床数****① 平成 29 年度病床機能報告**

	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	うち 非稼働	介護保険施 設等へ移行
① H29.7.1 時点	205	0	0	0	205	0	0	
② 2023 年(6 年後)	205	0	0	0	205	0		0
②-①	0	0	0	0	0	0		
③ 2025 年								
③-①								

(うち非稼働…H29.7.1 時点で休棟中で、かつ、過去 1 年間に病棟全体が非稼働である病棟の病床数)

**② 平成 30 年度病床機能報告**

	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	うち 非稼働	介護保険施 設等へ移行
① H30.7.1 時点	205	0	0	0	205	0	0	
② 2025 年	205	0	0	0	205	0		0
③ -①	0	0	0	0	0	0		

(うち非稼働…H30.7.1 時点で休棟中で、かつ、過去 1 年間に病棟全体が非稼働である病棟の病床数)

※平成 30 年(基準日)と 2025 年の病床機能が異なる場合(転換しようとする場合)には、その理由を記入してください。

( )

**(2) 診療科の見直し**

① 平成 30 年時点の診療科: 小児科・内科・歯科

② 平成 30 年時点と 2025 年で診療科の見直しがある場合は記入してください。

( )

**(3) 診療実績等**

	平成 29 年	平成 30 年
病床稼働率	0.97	0.95
平均在院日数	1685.4	3037.3

**4. 特記事項**

医療機関名	医療法人 康生会 溝部病院
-------	---------------

許可病床数	44床(うち一般0床、療養44床)
-------	-------------------

## 1. 現状

溝部病院は、診療体制としましては現在、医療療養型入院基本料Ⅰの申請による療養病床を44床完備しており、基幹病院での治療が安定し更に継続治療が必要な患者様に対しまして、医療の提供させて頂いております。

- 患者様の人格を尊重し、やさしい心で接する医療
- 患者様の安全を優先し、信頼される医療
- 芦北地域の皆様に貢献し、満足される医療

以上を経営理念とし、芦北町に創設以来、医療診療を通して地域の皆様の健康の維持管理のお手伝いをさせて頂いている病院でございます。

〔届出状況〕(平成29年度 病床機能報告データより)

療養病棟入院基本料Ⅰ 44床  
療養病棟療養環境加算Ⅰ  
入院時食事療養1  
入院時生活療養1

〔入退院状況〕(平成29年度診療実績)

入院：57人 入院元：介護施設 4人 医療機関 28人 自宅 25人  
退院：59人 退院先：死亡 24人 介護施設等 5人 医療機関 5人 自宅 25人

〔職員数〕(平成30年7月1日現在)

常勤:35人 非常勤:5人 計:40人  
医師 2.2人 看護師 7.8人 准看護師 4.8人 看護補助 12人 薬剤師 1人  
管理栄養士 1人 栄養士 1人 調理職員 4.8人 事務職員 3人

## 2. 地域において今後担うべき役割 (必須)

本年度、在宅復帰機能強化加算を申請し、6月より運用開始しました。昨今の診療報酬改定等で方針として打ち出されているのが、地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進といったことです。当院は、自院の立ち位置を明確にし、その役割をしっかりと果すことが大切と考えます。医療療養型病床を持つ溝部病院としては、水俣市医療センターをはじめとする近隣基幹病院からの退院患者様の受入先となり、当院にて継続治療ののち可能な限り在宅へご退院いただく、一連の流れを構築して行くことを考えております。その為には、これまで以上に幅広い患者様への対応も必要と考えております。また、昨年より人工呼吸器も1台導入し、より重症な患者様への対応も可能となりました。

在宅復帰機能強化加算取得病院として、ますます地域医療連携に貢献して行く所存でございます。

**3. 具体的な計画** (必須)**(1) 病床機能ごとの病床数****①平成 29 年度病床機能報告**

	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	うち 非稼働	介護保険施 設等へ移行
①H29.7.1 時点	44	0	0	0	44	0	0	
②2023 年(6 年後)	44	0	0	0	44	0		0
②-①	0	0	0	0	0	0		
③2025 年								
③-①								

(うち非稼働…H29.7.1 時点で休棟中で、かつ、過去 1 年間に病棟全体が非稼働である病棟の病床数)

**②平成 30 年度病床機能報告**

	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	うち 非稼働	介護保険施 設等へ移行
①H30.7.1 時点	44	0	0	0	44	0	0	
②2025 年	44	0	0	0	44	0		0
②-①	0	0	0	0	0	0		

(うち非稼働…H30.7.1 時点で休棟中で、かつ、過去 1 年間に病棟全体が非稼働である病棟の病床数)

※平成 30 年(基準日)と 2025 年の病床機能が異なる場合(転換しようとする場合)には、その理由を記入してください。

有りません

**(2) 診療科の見直し**

①平成 30 年時点の診療科: 内科、循環器内科

②平成 30 年時点と 2025 年で診療科の見直しがある場合は記入してください。

有りません

**(3) 診療実績等**

	平成 29 年	平成 30 年
病床稼働率	0.95	0.95
平均在院日数	243.6	241.8

**4. 特記事項**

地域人口の減少と高齢化が進む中、今後の地域医療がどうあるべきか考えながら、地域住民のニーズにこたえられる病院として歩んでゆくことを考えております。

医療機関名	医療法人社団弘翔会 井上病院
-------	----------------

許可病床数	40床(うち一般0床、療養40床)
-------	-------------------

## 1. 現状

### ・医療法人社団・弘翔会

井上病院: 医療療養病床(療養病棟 2)、小児科外来

井上医院: 有床診療所(外科・内科系の外来・入院、急性期～亜急性期)

### ・関連の社会福祉法人・慈友会

特別養護老人ホーム五松園

五松園短期入所生活介護事業所(ショートステイ)

五松園デイサービスセンター

五松園居宅介護支援事業所

養護老人ホーム有隣

グループホーム慈愛

芦北町の医療・介護の分野において総合的に貢献すべく、また芦北町において地域包括ケアの理念を実現すべく、これまで両法人併せて上記の施設・事業所を運営してきました。

この中で当院は主に慢性期の患者さんの入院医療を担っており、急性期・亜急性期の医療機関から医学的管理(胃瘻・経鼻胃管からの経腸栄養、喀痰吸引、酸素投与、点滴、緩和ケアなど)を長期的に必要とする患者さんの受け入れを行っています。また、介護施設の入所までの待機期間が長い傾向にあるため、急性期・亜急性期の医療機関での治療が終了して介護施設の入所を待つ患者さんの待機の間としての受け入れも行っています。(一方、高齢者の方の肺炎や尿路感染症での入院など、いわゆる在宅患者さんの後方支援については、有床診療所である井上医院の方で行っています。)

両法人の各施設の間で情報共有・連携を密に図り、個々の患者さんにとって最適な療養・介護の場を提供できるよう努めています。

## 2. 地域において今後担うべき役割 (必須)

芦北町において医学的管理を長期的に必要とする患者さんの療養の場のニーズというのは、今後も継続的にあるものと考えており、私達は現在有する慢性期病床としての機能をできるだけ維持していきたいと考えています。

前に述べたように、両法人の各施設の間で情報共有・連携を密に図り、個々の患者さんにとって最適な療養・介護の場を提供できるよう、また現在～今後の医療・介護制度の中で慢性期病床に真に求められる役割を果たすよう、今後も努めていきたいと考えています。

**3. 具体的な計画** (必須)**(1) 病床機能ごとの病床数****① 平成 29 年度病床機能報告**

	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	うち 非稼働	介護保険施 設等へ移行
①H29.7.1 時点	40	0	0	0	40	0	0	
②2023 年(6 年後)	40	0	0	0	40	0		0
②-①	0	0	0	0	0	0		
③2025 年								
③-①								

(うち非稼働…H29.7.1 時点で休棟中で、かつ、過去 1 年間に病棟全体が非稼働である病棟の病床数)

**② 平成 30 年度病床機能報告**(※報告後に変更した内容で記載)

	合計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中等	うち 非稼働	介護保険施 設等へ移行
① H30.7.1 時点	40	0	0	0	40	0	0	
② 2025 年	40	0	0	0	40	0		0
③ -①	0	0	0	0	0	0		

(うち非稼働…H30.7.1 時点で休棟中で、かつ、過去 1 年間に病棟全体が非稼働である病棟の病床数)

※平成 30 年(基準日)と 2025 年の病床機能が異なる場合(転換しようとする場合)には、その理由を記入してください。

[ ]

**(2) 診療科の見直し**

①平成 30 年時点の診療科:内科、小児科、胃腸科

②平成 30 年時点と 2025 年で診療科の見直しがある場合は記入してください。

[ ]

**(3) 診療実績等**

	平成 29 年	平成 30 年
病床稼働率	0.99	0.98
平均在院日数	534.9	468.9

**4. 特記事項**

地域医療構想の二次医療圏としては「水俣・芦北地域」という枠組みになりますが、芦北町から水俣市までは距離があり、公共交通機関の利用も近年不便になっているため、芦北町内の高齢者の方々にとっては「芦北町内に通える医療機関がある」ということが重要な点だと思われます。私達は、芦北町内の高齢者の方々のために、これまで有している各施設の機能を今後も芦北町内でできるだけ維持していきたいと考えています。